

区 分	内 容
議 題	県都まえばし創生本部有識者会議 令和4年度第1回会議
日 時	令和4年9月21日(水) 午後2時00分～3時30分
場 所	前橋市役所11階 北会議室
出 席 者	<p>【委員：9名】</p> <p>リモート参加：江口委員、大森委員、楯委員、中島委員、萩原委員、橋本委員、平田委員、前田委員、矢嶋委員</p> <p>【前橋市】</p> <p>戸塚副市長、吉川教育長、青木未来創造部長、草野政策推進課長、林政策推進係長、政策推進係員</p>
発 言 内 容	
青木未来創造部長	<p>ただいまから、県都まえばし創生本部有識者会議・令和4年度第1回会議を開会いたします。私は、本日の司会を務めます、前橋市未来創造部長の青木と申します。どうぞよろしく申し上げます。</p> <p>本日の会議は、新型コロナウイルス感染防止を考慮しまして、リモート参加での開催とするとともに座席もリモート用の配置となっています。</p> <p>また、市側の出席者も最小限の参加人数となっておりますのでご承知おきください。</p> <p>それでは、はじめに、県都まえばし創生本部・副本部長の戸塚副市長からごあいさつを申し上げます。</p>
戸塚副市長	<p>本日は、お忙しい中「県都まえばし創生本部有識者会議令和4年度第1回会議」にご出席いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>人口減少社会において、地域の活力が維持できるよう色々な施策について昨年度取り組んでまいりました。重点事業の進捗状況を中心にご議論いただき、委員の皆様それぞれの立場からご意見をいただければと思っております。いただいた意見を市政に反映できるようにまいりたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。</p>
青木未来創造部長	<p>ありがとうございました。</p> <p>また、本日は副本部長である吉川教育長にもご出席いただいておりますが、時間の都合上、ご紹介のみとさせていただきます。</p> <p>次に、今年度、新たに委員になられた方をご紹介いたします。前橋市都市計画審議会 委員 中島(なかじま) 聡(さとし) 委員さん、前橋の地域若者会議 委員 萩原(はぎわら) 洋一(よういち) 委員さんです。どうぞ、よろしく願いいたします。</p> <p>続きまして、本市の出席者についてですが、自己紹介については省略させていただきますが、冒頭ごあいさつを申し上げました戸塚副市長以下、名簿に記載のとおり計9名となっておりますので、よろしく願いいたします。</p>

それでは、議事に入る前に資料の確認をさせていただきます。

資料は事前に送付させていただきました次第下部に記載のとおりとなっております。必要に応じて、お手元でご確認いただきながらご協議をお願いいたします。

資料一覧

- (1) 次第
- (2) 県都まえばし創生本部有識者会議委員名簿
- (3) 県都まえばし創生本部有識者会議設置要綱
- (4) (資料1) 第七次前橋市総合計画 令和4年度行政評価について
- (5) (資料2) 令和4年度行政評価シート (全51事業)
- (6) (資料3) 行政評価に対する意見等
- (7) (資料4) 地方創生推進交付金活用実績一覧
- (8) (参考資料) 第七次前橋市総合計画(創生プラン)令和4年度行政評価等について

本日の会議はリモート開催となっておりますので、ご発言のルールを説明いたします。主に協議の際となりますが、ご発言を希望される際には、ご自身の画面上で操作いただき「挙手」ボタンを押してください。

座長の大森委員から指名をさせていただきます。座長からの指名後、マイクを「オン」にしてご発言をお願いいたします。最後に発言終了時には「以上です」と言っておいただき、マイクを「オフ」にしてください。

他の委員のご発言中には、発言せず挙手ボタンを押して座長からの指名をお待ちいただくようお願いいたします。

それでは、次第の「3議事」に移ります。

ここからの進行は、設置要綱第5条第2項により共愛学園前橋国際大学の
大森委員さんに座長をお願いしたいと思います。

恐れ入りますが、冒頭に一言ごあいさつをいただき、議事進行をお願いいたします。

大森委員

みなさん、こんにちは。

共愛学園前橋国際大学の
大森でございます。委員のみなさまには誠にお忙しい中、お集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

昨年に引き続きリモート開催となりますが、リモート会議の方が話しやすい場面、そうではない場面あるかとは思いますが、忌憚のないご意見をいただければと思います。

前橋市の最上位計画である「第七次前橋市総合計画」は、平成30年度に計画がスタートし、第1期推進計画期間を終え、現在第2期推進計画の2年目となっております。

本日の議事であります総合計画の進行管理については、第2期推進計画の初年度の取組み結果について皆さまからご意見をいただき、昨年度の振り返りができればと思っております。市が評価している内容に対して、外部委員である

	<p>我々の意見を加味して最終的な評価を定めて次のステップに繋げていく予定となっております。</p> <p>昨年はコロナの影響で予定通り事業を実施できなかったものもございますので、その点も含めて見ていただき、それぞれ専門のお立場からご意見いただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日の会議は、概ね1時間半を目安とさせていただきたいと思っておりますので、議事の進行につきまして、委員の皆さま方のご協力をお願いいたします。</p> <p>また、本会議は公開となっておりますので、傍聴及び撮影につきまして許可することといたしますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、議事の（１）第七次前橋市総合計画の進行管理について、（２）地方創生推進交付金事業についてでございます。２つ関連するものでありますので、事務局から一括して説明をしていただいて、その後、皆様からご意見、ご質問をいただければと思います。それでは事務局からご説明お願いいたします。</p>
政策推進係員	<p>【(参考資料) 第七次前橋市総合計画(創生プラン)令和4年度行政評価等についてに基づき説明】</p>
大森委員	<p>ご説明ありがとうございました。それでは、ここからは議事に入りたいと思います。ただいまの説明と配付された資料をご覧ください、ご質問、ご意見を自由にご発言いただければと思います。事前にいただいていたくさんのご意見に対しての事務局の考え方も示されております。例えば、事前にいただいていたご意見に対しての考え方についての異議や、事前のご意見を再度おっしゃっていただいても構いません。また、事前のご意見でない新しいご意見でも構いませんので、どなたからでもご自由にご発言いただければと思います。</p>
大森委員	<p>では、実験的に私が手を上げるボタンを押してみます。</p> <p>若者の定着については、やはり気になる部分です。地方創生の根幹と考えますが、社会増減にどのように対応していくか。まだ好転しているとは言えないのではないかと思います。</p> <p>とても重要なポイントだと思いますが、予算の規模があまりにも小さいのではないかと事前意見を出させていただきました。その回答として、総合計画以外の事業でも色々な取組を行っているという回答をいただきましたが、そういった事業の評価も全体として資料をまとめることは可能でしょうか。</p>
草野政策推進課長	<p>総合計画を推進するにあたって、例えば中心市街地や移住定住など、各種プロジェクトを組んでおり、施策の横の繋がりをまとめて見せるような努力をしています。例えば移住定住では、空き家バンク、移住相談の事業、また雇用の面での事業など、関連性のある事業を貼り付けて見せています。</p> <p>今年度のパワーポイントの説明もそういう視点を少し入れたつもりですが、若者定着に関しても、例えば雇用政策、関連政策を並べてご審議いただいて評価していただくような取組ができると思っておりますので、来年度は説明の仕方、見せ方、またそういったものが市民にもPRになっていくと思っておりますので、工夫し</p>

	ていきたいと思えます。
大森委員	<p>ありがとうございます。行政評価にあがっているのは、リカレント教育やインターンシップ、高校生のフィールドスタディーの3つであり、どれも重要な施策ではあるが、逆に言うと他に事業はやっていないという見え方にもなってしまうのももったいないと感じます。委員のみなさまからも多く意見があったことから、工夫をしていただきたいと思えます。</p>
大森委員	次に、矢嶋委員をお願いします。
矢嶋委員	<p>日赤跡地について質問させていただきます。</p> <p>普段通勤で日赤跡地を通っておりますが、本来の目的である商業の部分やこども園も併設されており、非常に賑わっていると思えます。その中で認知症カフェも整備されていますが、あまり周知がされていないように感じています。認知症に関しては、本人、あるいは家族が孤立しないために取組を進めていくものであるため、現状の活用率やこども園の子供たちとの交流について、現状を教えてください。</p>
草野政策推進課長	<p>CCRC 事業です。まず CCRC という名前がわかりづらい部分があったと思えますが、施設が完成してみても全体的な事業内容がわかるようになったと思っております。福祉分野の連携状況について、細かい部分までは確認しておりませんが、周知を継続的にやりたいと思えます。</p> <p>また、スーパーや保育所など民間主体による連絡協議会を作ってくださいっており、これは行政が主体で作ったわけではなく、皆さんが自主的に作っていただいております。民間の力を陰ながら周知していければと思えます。</p> <p>補足情報ですが、住宅分譲とアパートを合わせて約 47 世帯ぐらいあるとのこと。それに加えて街中の不動産業者にも声を掛けて、周辺の空き家でも転居先を呼び込もうというゼロ予算事業も行っています。分譲はまだ始まっておりませんが、アパートは 90%以上入居している状況ということです。引き続き周知をしていきたいと思えますので、よろしくお願いたします。</p>
矢嶋委員	<p>ありがとうございます。私も日赤の元職員でありますので、賑わうことは嬉しいことです。引き続きよろしくお願いたします。</p>
大森委員	ありがとうございました。次に中島委員をお願いします。
中島委員	<p>第6章の合理的な土地利用について2点お伺いします。</p> <p>市街化調整区域の開発許可を緩和したことによって、大胡、宮城、粕川、富士見へのスプロールが止まったというような書き方をされておりますが、市街化調整区域の規制を緩めたから非線引き区域に行かなくなったという解析は少し疑問に感じます。大胡、宮城、粕川、富士見は元々人口が減少している地域であることから減少したと考えられると思えます。スプロールを抑えるということは、市街化区域や市街化調整区域からの流入量を減らすということではな</p>

	<p>く、例えば、旧大胡町役場や旧宮城村役場の周辺など、インフラが整備されているところに人を集めていくことに重点を置くべきではないかと思います。</p> <p>2点目は相変わらず市街化区域から市街化調整区域への流出が多く、2009年から2019年においても1016件となっております。これは市街化区域と市街化調整区域の境から市街化調整区域へ市街化が広がっていると思われませんが、インフラの整備や維持管理が新たに必要となってきます。開発許可を緩和するのではなく、市街化調整区域の昔からの中心的な集落の維持管理をする手法を用いるべきではないかと考えております。</p>
<p>草野政策推進課長</p>	<p>今回、合併後15年以上経過しての現状を示させていただいたというのが趣旨の一つでございます。また、都市計画区域のあり方でございますが、合併地区と一体的な都市計画区域とすることが当初の話でございました。その中で4町村地区にも線引きした後の激変緩和のために市街化調整区域の部分的な規制緩和をしたものです。まずは都市計画区域を一体化させて、その後、市街化調整区域のあり方を見直す順番となっております。</p> <p>転入出先の図で吉岡町に33人の流出という結果になっておりますが、この傾向は続いている状況です。前橋の市街化区域に人を集めるということを念頭に置きながらも規制のあり方を考えていかないと吉岡町に流出してしまう側面もありますので、色々な角度から研究して行きたいと思っております。</p>
<p>中島委員</p>	<p>ありがとうございます。ただ、都市計画区域を統合した場合、旧富士見村、旧宮城村はすぐに線引きするというわけではないため、非線引きと同じ状態にあります。やはり市街化調整区域の中の大きな集落は上下水道などのインフラが整備されているため、そこに人を集めるような手法を採った方がいいかと思えます。</p>
<p>草野政策推進課長</p>	<p>ありがとうございます。参考にさせていただきます。</p>
<p>大森委員</p>	<p>ありがとうございました。橋本委員お願いします。</p>
<p>橋本委員</p>	<p>先ほどの若者の定着や市街化の広がりなどのお話があるなかで、その評価軸が人数や件数となっておりますが、人口が減少していく側面があるため、全体数に対してのパーセンテージで見ていく必要があるのではないのでしょうか。全体数が減少していくなかで人数だけでカウントしてしまうと評価が変わってしまうと思っております。</p> <p>不登校生徒のところでも質問させていただいておりましたが、全体の児童数が何人いて、その中のうちの何パーセントが不登校になっているのか、人数だけでカウントせずにパーセントで見たほうが良いと思います。今後は見方が少しずつれていくような時代になっていくかと思っておりますので、指標を少し変えていく必要も出てくるのかなと思います。ご検討いただければと思います。</p>
<p>草野政策推進課長</p>	<p>単純な人数だけでなくという視点で全体的に参考にさせていただきたいと思えます。また、馬場川の指標についても意見いただいておりますので、補助指</p>

	<p>標にするか現実的に研究してまいりたいと思います。</p>
大森委員	<p>ありがとうございました。平田委員お願いします。</p>
平田委員	<p>広瀬川を活かしたまちづくりが重点事業であります。綺麗なレンガ舗装や植栽があり、とてもいい雰囲気であると感じております。私自身、通勤で通るなかで心配していることがございまして、一方通行の車道を猛スピードで通る車が見受けられます。文学館の手前あたりで左右に植え込みや鉢を置いて車を減速させる仕組みとなっておりますが、慣れている人は減速せずに通っております。犬の散歩や多くの人が歩いているなかで、いつか人身事故が起きるのではないかと危惧しておりますので、何かしらの対策を施した方が良いかと思っております。</p>
草野政策推進課長	<p>まず、現地を確認して担当課と対策がとれるか検討してまいりたいと思います。</p>
大森委員	<p>ありがとうございました。綺麗に整備され、たくさんの方が散歩していただけるようになりましたので、子供も安心して歩けるような場所にさせていただきたいと思っております。</p> <p>中島委員お願いします。</p>
中島委員	<p>重点事業 44 の公共交通の利便性向上、重点事業 45 の自転車のまち前橋の推進についてですが、まちなかで色々な事業が実施されてめづいていると感じております。一方で、そこに行く交通手段が大きな課題になってくると思います。今後、高齢化社会が進んでいく中で、いかに高齢者の移動手段を確保できるかが重要となります。MaeMaaS など、市で政策を進めていると思いますが、公共交通と自転車を分けるのではなく、総合的な移動手段を確保するという点でプロジェクトを起こすのはどうでしょうか。そうすれば市民にもわかりやすいのではないのでしょうか。自転車、鉄道、バス、タクシーなど、多様な移動手段の確保という点から全体的な事業を起こしてみたいかかでしょうか。</p>
草野政策推進課長	<p>ご意見ありがとうございます。担当の交通政策課にも伝えたいと思います。また、MaeMaaS も実験段階ですので、本格実施できた際は行政評価で効果検証していきたいと思っております。</p>
大森委員	<p>市役所ではマイタクの登録窓口を開いていただいておりますが、実際の利用状況はどうなのでしょう。</p>
草野政策推進課長	<p>実績は手元にはないのですが、盛んに使われております。実際には通院などで使っていただくことが多いのですが、その際に便利と感じていただけることが多く、他の用事でも使っていただいております。郊外部の方は呼び出しに別途料金が掛かってしまう課題もございまして、マイタクはマイナンバーカードを利用して事務の効率化を図り、コストを抑えながら運用し、喜んでいただい</p>

大森委員	<p>いると思っております。</p> <p>ありがとうございます。次に前田委員お願いします。</p>
前田委員	<p>女性の正規雇用の人数が目標値130人に対して77人という実績だったことについて、コロナの要因と分析されており、事前意見の回答に非正規雇用を選択せざるを得ない状況で正規雇用が減ったということですが、確かにそうだと思います。</p> <p>この現象は全国的にも見られる傾向で、内閣府もそう指摘しております。この結果は、つまり女性の正規雇用が減っていたり、非正規雇用になっていたり、あるいは非正規雇用の職を失っている女性がいて貧困に陥っている。これはやはり性別役割の意識が根強くあったということが証明されている一つの現象として考えた方が良くと思います。男性が育児休業を取りづらい部分ともリンクしておりますし、若い女性でやる気のある人たちが仕事や結婚、子育てと思っても現状見ると無理という判断になってしまいます。</p> <p>これはすぐに解決ができるのか、状況が変わる話ではないのですが、なかなか変えるのは難しいと言いながら、1999年の男女共同参画社会基本法ができてからもう何十年と経ってしまっていることを考えると、難しいの一言では片づけられないというのがコロナの影響で表に出てきたのではないかと思っております。それはどこの自治体も同じだと思いますが、是非とも前橋市役所がモデルとなって男性の育児休業取得や女性管理職の登用を進めていただき、地域の企業にも積極的に進めていけるような事業体となって頑張っていただきたいなと思います。</p>
草野政策推進課長	<p>ありがとうございます。前田委員がおっしゃるようにゴールがないものだと感じております。男女共同参画センターも約25年前に設置して共同参画を成し遂げたから解散しようという状況には当然になっていないわけで、粘り強く進めていきたいと思っております。ただ、少しずつ変わってきているというのも事実かと思っております。それは先ほどのM字カーブが緩やかになったことや、政策推進課でも今年、短い期間ですが1人男性職員が育児休業を取りました。</p> <p>これが25年前でしたら男性が育児休業を取る雰囲気はなかったと思います。</p>
大森委員	<p>ありがとうございます。1999年以降というお話がありましたが、遡ると1986年の雇用機会均等法以降も第1子が生まれて仕事を辞める女性の割合が30年経っても変わっていない現状はあって、どこかで意識の変化と同時に何らかのポジティブアクションを展開しないといけない時期に来ているなということも感じておりますが、なかなか踏み切れない。これは市単体といよりは国の政策の話でもありますが、意識啓発レベルはずっと続けていくことだと思いますが、そこにだけ日本は頼ってきたなという感じもしております。ただ、おっしゃるように男性の育児休業について、昔は思いもつかないような取得率となつていると思います。M字カーブの曲線も緩やかになったことは評価すべきだと思いますが、中身は正規雇用と非正規雇用がクロスするという現状は変わっていないため、次のステージに入っていくことが必要だと思います。</p>

大森委員	次に、楯委員お願いします。
楯委員	<p>全体として、小学校の引きこもりについては取り組んでいると思いますが幼児教育の方について、あまり取り組みが見えてこなかったため、もう少し考えていただければなと思っています。</p> <p>やはり引きこもりの原因は幼児期の環境もあるかと思います。前橋市は色々な支援をしていただき素晴らしいと思いますが、他の自治体と比べて一生懸命子育て支援をしていると思われる目玉的な施策を考えていかないと、子育て世代が前橋市を選んでもくれないと思いますので、幼児教育や子育て支援について、政策として考えていただきたいと思います。</p> <p>また、アーツ前橋についてですが、私も美術館が好きでよく行くのですが、問題が発生して以降、運営が上手くできていない部分があると感じております。</p> <p>現在、館長を募集しているかと思いますが、やはりお金をかけないと魅力的な美術館にはならないと思いますし、お金をかけられないのであれば新たな手法を考えなくてはいけないと思います。</p> <p>個人的な意見ですが、子供が行くと美術のワークショップができるなど、子供を中心とした美術館、他の美術館にはないような特化した美術館とするのはどうでしょうか。</p>
草野政策推進課長	<p>幼児教育の部分は計画を正しく示せていなかったところで福祉の分野にも関わっているところがございます。例えば障害児が保育所や認定こども園にいる場合、お世話をする加算補助等、園側と話し合いを積み重ねてきた実態があります。</p> <p>また、保育事業のところは、今まで入居率をPRしてきたところがございますので、おっしゃるように中身の部分で今まで皆さんと積み上げてきたものをPRできるよう考えていきたいと思っています。それは教育の部分というよりも福祉の部分で評価するやり方も含めて考えてみたいと思います。去年も同じ質問いただき、園というのは認定こども園という回答させていただきましたが、園づくりの組み立てを入れる場所については、また考えさせていただければと思っています。</p> <p>アーツ前橋は他の委員からも事前に同じご感想をいただきました。ゼロ予算でも動きが止まってしまっているという意見でした。現在、館長公募をはじめ、アーツカウンスルも再開しておりますので、本日いただいた意見を参考にさせていただきながら手作り感があって皆様と共に創り上げていくような、そういった姿勢が大事だと思います。またご意見をお願いいたします。</p>
大森委員	<p>ありがとうございます。子育て支援、子供、幼児教育、そういった計画の建付けについて、これは仕方ない部分があるのも承知で発言させていただきます。</p> <p>例えば福祉課が担当なのか、教育委員会が担当なのか、その割付で計画は出来ていく部分がありますが、先ほどの若者の括りもそうですし、子供といった時は幼稚園も保育園もみんな子供たちですよね。そういった部分の見え方を市民に伝わるようにしていくことも必要になってくると感じたところです。</p>

<p>吉川教育長</p>	<p>では、教育長お願いします。</p> <p>大森座長、ありがとうございました。また、楯委員さんからも的確なご指摘ありがとうございます。確かに見せ方も大事だと感じております。それとともに、やはり私たち教育委員会も0歳児から6歳児である未就園児の教育についても研究をしております。来年の4月からは、こども家庭庁が創設されて福祉と教育と健康のそれぞれをより強力に連携をしていかなければならない段階にきます。そのことも踏まえまして、今いただいたようなご意見をもとに、より連携して私たちの教育分野での研究機関が幼稚園だけではなく、こども園や保育園にしっかりと広がっていくように努めていきたいと思っております。ご意見どうもありがとうございました。</p>
<p>大森委員</p>	<p>教育長、ありがとうございました。</p> <p>江口委員、いかかでしょうか。</p>
<p>江口委員</p>	<p>外国人のところですが、昨年も質問させていただきましたが、昨年の内容とあまり変わらないと感じました。市の受け入れの考え方が県に聞いているだけで改めて聞く内容ではないと感じました。</p>
<p>草野政策推進課長</p>	<p>留学生の場合は学校を通じてパイプがあり、情報交換はできておりますが、働いている方の実態がなかなか掴めていないのが現状です。その原因としまして、国が情報を提示していただけない、それは県も国に頼んでおりますが教えていただけないという実態があるそうです。そのため、去年もご意見いただきましたが、外国人とうまく溶け込んで前橋で会社を営業している成功事例をまず紹介していこうということで前橋教習所の事例などを取材してホームページでPRしております。前橋教習所では外国人スタッフを揃えて全国から多くの外国人が免許を取りに来ており、うまく溶け込んでいる事例がございます。まずはそういったところを積み重ねていきたいと思っております。</p>
<p>江口委員</p>	<p>商工会議所の会員に対して、外国人の雇用状況などをお聞きになったことはありますか。</p>
<p>草野政策推進課長</p>	<p>商工会議所に外国人を雇っていますかというアンケートは政策推進課では実施したことがないため担当課に確認したいと思っております。ただ、外国人材を活用したいですかというアンケートを実施したことがあるため、後で確認したいと思っております。</p>
<p>江口委員</p>	<p>実際に外国人材の雇用は進んでいます。前橋教習所も実際に雇用しておりますが、今後どうしていったらいいのか、何か対策が必要なのかという相談もあるため、成功していると思われているかもしれませんが、課題もあります。</p> <p>実態把握で言えば、例えば介護です。専門学校を卒業した際、みんな登録機関に登録するため、そこに確認すればわかるはずですが。介護分野だけ調べても多くの人数を把握できると思っております。</p>

大森委員	<p>ありがとうございます。実態把握の努力はもう少しできるのではないかと思います。文化国際課によく伝えていただいて、行政に確認できないのであれば事業者を確認をしていくなど、大変な作業になるかもしれませんが、検討してみてくださいと思います。</p>
草野政策推進課長	<p>事業所を通じて検討できると思いますので、参考にさせていただきます。ありがとうございます。</p>
吉川教育長	<p>教育現場での受け入れに関しましても語学の問題が課題になってくるかと思いますが、ポケットークという翻訳機械の導入やGIGAスクールで使っておりますタブレットの方にも翻訳機能を入れたアプリなどが導入できるようになっております。学校現場で外国の子供たちがしっかりと前橋に溶け込めるように今後も努めてまいりたいと思います。よろしく願いいたします。</p>
大森委員	<p>萩原委員、初回だったと思いますが、ご意見やご感想はいかがでしょう。</p>
萩原委員	<p>産業関係で重点事業 No. 21 市内事業者の事業継続支援のところ。事前意見シートで出させていただいた倒産件数が低水準で推移しているというところで倒産件数とは法人のみの分類でしょうか、という質問させていただいたことに対して、特に産業界に影響が大きいと考えられる法人かつ負債総額 1,000 万円以上のものを対象としていますとご回答いただきました。しかし、実際、市内で創業支援センターなどを整備していただいて、個人の創業や新しいチャレンジを支援していく中で資金繰りの支援事業としては大きい法人のみの把握となっていることが若干アンバランスではないかと感じたところであり。例えば、街中を歩いてみても小さい個人の飲食店がコロナの影響で閉店が相次いでいたり、その関連業種の倒産も相次いでいる実情を見てきています。そういったところで、本当に資金繰りの支援は充分だったかどうかを振り返る中で個人の方も評価軸に入れていただかないとその部分が分かりにくいのではないかと思います。市内にも大きい法人がありますが、そういった法人もスタートアップで始めたときは小さな個人事業から始まり、事業を重ねて成功して大きくなっていく、まさに小さいところからめづいているかと思いますが、フォローや実態把握をしていただけることでより良い政策になっていくと思います。これは若者目線にとっても色々なチャレンジに繋がっていくのではないかと思います。</p>
草野政策推進課長	<p>ご意見ありがとうございます。個人事業主の方の活躍には、市としても期待をしているところでございます。</p> <p>細かい調査で手間暇をかけて全体を調査できるかという点は課題があるかと思いますが、市が創業支援をした事業者や地区を絞って統計を取ってみるなど、何らかのやり方はあると思いますので担当課にご意見を繋いで手法を検討してみたいと思います。</p>

大森委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、各委員様から非常に重要なご意見をたくさんいただいたと思います。また、事前意見でもたくさんのご意見いただきありがとうございました。それでは議事が終了いたしましたので、座長の任を解かせていただきます。議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。</p>
青木未来創造部長	<p>大森座長さん、議事進行ありがとうございました。各委員さん、たくさんのご意見誠にありがとうございました。</p> <p>次に、事務局から事務連絡等がありましたらお願いします。</p>
政策推進係員	<p>事務局より1点、ご連絡があります。</p> <p>本日の会議録につきましては、作成でき次第、委員の皆様方に送付させていただきます。内容の確認後、ホームページで公表となりますので、ご承知おき下さいますようお願いいたします。</p> <p>事務局からは以上でございます。</p>
青木未来創造部長	<p>ただいまの説明に対しまして、ご質問等がありましたらお願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、県都まえばし創生本部有識者会議・令和4年度第1回会議を終了します。</p> <p>長時間にわたりご協議いただき、誠にありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>